

登録コード	E4100901	開講年度	2026			
授業科目	教育原論B				担当教員	高柳 充利
英文授業名	Fundamental Theory of Education B				副担当	越智 康詞
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学生
講義室	教育図書2階講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観について自分なりに考えを深めることができるようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能について自分なりに考えを深めることができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	人間の生成・発達・学びとはどのようなことなのか。本講義では、狭い意味での学習にとどまらず、「学ぶ」ことは、人間が生きることそれ自体であり、とりわけ、人と人の「あいだ」にある存在としての「人間」が、世界、他者・社会、自己とかわかり、その関係を結びなおすプロセスであるという観点を中心に、「学び」の意味をさまざまな角度から探求する。こうした過程において、そもそも人間が教育を受ける／施すとはどのようなことなのか、学校教育とはどのような営みか、といった根源的な問いを深めるうえで助けとなる教育思想や社会的背景につき検討をおこなう。					
(5)授業計画	＊第1回-7回 担当：高柳、第8-14回（14回目は後半試験） 担当：越智 第1回：ガンダンス・導入 第2回：子どもから教育を考える 第3回：学校から教育を考える 第4回：人間の変化から教育を考える【遠隔等】（オンデマンド） 第5回：シェイクスピアの悲劇から教育を考える（前編：四大悲劇）【遠隔等】（オンデマンド） 第6回：シェイクスピアの悲劇から教育を考える（後編：三つの視点）【遠隔等】（オンデマンド） 第7回：中間のまとめ【遠隔等】（オンデマンド） 第8回：後半の導入&二つの教育観（社会の教育と人間の学び、子どもの学びと教師の学び） 第9回：生命・進化・学習（人間とは何か） 第10回：学びの構造とその支え（他者・言語・コミュニケーション） 第11回：教育の社会史I（世界史的観点から見た教育の誕生とその変容） 第12回：教育の社会史II（日本の教育の発展と現在の課題） 第13回：子どもを取り囲む環境（自己形成空間としての現代社会） 第14回：教育と公共性・批判的省察へ 定期試験定期試験 期末テスト ※授業の展開等の事情により順序が前後することがある。 ※第14回は授業アンケートの実施を含む。 ※教育実習における欠席分の補講については、欠席する回の担当教員に事前に申し出て指示を仰ぐこと。					
(6)成績評価の方法	成績評価は次のような事項を参考に行う予定であるが、受講の状況によって調整・最適化を図る場合もある。 ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観に関連した人間と社会と教育についての授業内容の理解度を確認する小テスト6回程度と提出課題1回程度（およそ15%） ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観に関連した人間と社会と教育についての授業内容の理解度（主に学期前半の内容）を確認する中規模テスト1回（およそ35%） ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観に関連した人間と社会と教育についての授業内容の理解度を総括的に確認する期末テスト1回（およそ50%） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり,(ii) その問題の背景を説明できており,(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており,(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており,(v) その上で自分の見解を提示できており,かつ,教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	事前学習：授業計画で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書（教科書関連箇所含む）や討議の機会をみつけ、思考を深めること。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。 従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。					
(9)履修上の注意	授業時間以外において各自の関心に基づき適宜学びを深めることが求められる。					

(10)質問, 相談への対応及び連絡先	・【高柳】 オフィスアワーの実施場所：N316, 曜日・時間（在室の時はいつでも）。連絡先（研究室電話番号：026-238-4215, メールアドレス：takayana@shinshu-u.ac.jp） ・【越智】 オフィスアワーの実施場所：N313, 曜日・時間（在室の時はいつでも）。連絡先（研究室電話番号：026-238-4218, メールアドレス：yasushi@shinshu-u.ac.jp）
【教科書】	指定しない
【参考文献】	新しい時代の教育社会学（加野・越智編）ミネルヴァ書房, 2,592円（税込）